

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		りんく泉崎教室				公表日	2026年3月30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		利用児童に対して、学習などの担当、余暇時間を過ごす担当などに分けなくても問題なく過ごせる人数がいる。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		・現在のところ改善点などはなし。学習スペース、余暇時間スペースなど上手くできている。 ・送迎で一時的に職員が少なくなる時は活動を調整している		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・玄関口以外は段差があるが、その他の生活空間は、活動ごとに場所を分けるなど視覚的に分かりやすく構造化し、子どもが見通しを持って行動できるよう配慮ができています。 ・個室などがあり、子どもたちも理解しながら学習に望む部屋、余暇時間を過ごす部屋など分けて過ごすことができており、職員の声かけもしやすい		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			子ども自身が考えて、過ごすことのできる空間になっている。ただ、清潔の面で言えば水回り箇所の窓がなく、定期的な空気の入替えが必要に感じる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		場面に応じて職員から個室を使うよう声掛けを行っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			問題点やイベントなどの振り返りはできているように思うが、改善点の振り返り、もっと良くしたいという意識は少し足りないような気がする。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	日々バンドでコミュニケーションをとる分、保護者からの要望には対応しやすい、保護者が話しやすい環境になっている。	保護者向け評価がない気がします。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・定期的な会議を設けています ・業務日報などが共有をすることから必要であれば責任者を中心に決まりを作る体制が整っているから。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	会議などでは、他教室やエリアマネージャーなどが参加することが多く、アドバイスをもらっている機会がある。	見える化されていない気がします。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・会社からの月2時間の個人研修や会議などをもとにした現場での研修などがある。充実していると思う。 ・他業種の方からも話を聞ける機会がある		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	3	カード学習、新ドリル対策は個々に合わせて対応できています！		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3	3		放課後デイサービス計画案の見える化の共有があれば助かります。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	3		子どもの最善の利益を考慮したいとの判断はあるが、放課後デイサービス計画書が職員に常に確認できれば助かります。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	1	5		個別支援計画書通りの支援はできていないように思える。曖昧な部分が多いため、改善の必要がある。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	常に現場の職員同士で上手く共有し、どのような支援が必要なのか日々探っていることから		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	3	イベントなどを通して支援のアプローチのパターンを変えたりしながら楽しく学べる環境を置いている	・教室長と保護者との面談で話される内容の共有は現場職員にもすくさまありますが、各項目ごとの支援内容が具体的に設定されていないと思われます。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	・担当職員を決め、ローテーションで決めることができている。	・個別支援計画を確認できていないので今日、今月で何を伸ばすか、ねらいの達成はできているかが見えにくい。カード学習、新ドリルの日々の伸びしろは凄まじいほど手ごたえがあり、子どもたちの学習に対する成長がみえる！ ・もっとチームでやっている意識を持てるようにしていきたい
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	・職員を変えることで毎回同じ内容のものはないようにしている。 ・児童の声も聞きながら調整している	個別支援計画書がないので、固定化が見えにくいかと思います。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	2	・集団遊びなども入れながら協力してクリアする遊びを中心に進めている。	カード学習、新ドリル、余暇時間の取り組みはとてもよいが、放課後等デイサービス計画書が手元で見えてない。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		・開始時間など職員間で共有を図りながら効率的な時間配分をしている。 チャットワークや連絡事項で共有している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		日報など中心に気になる点をいくつか考える場面がある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	日報作成時に職員間で1日の見直しや振り返りを行い記録に残している。	共有はできているが口頭が多く、細かな記録はできていないように思う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	職員間同士で対象児童に対してのアプローチの工夫などの共有は日々できている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	1	遊びを織り交ぜた学習や日々の活動からの療育的内容までできている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		職員からの声掛けや決まりを作ることにより、児童自身に選択の場面を多く与えるなど工夫した声かけがあるため	おやつや選択や余暇時間ではできているが、学習の時間が多くと出来ないことが多い、りんくの活動内容としては自己選択の機会は少ないと思う。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		教室責任者を中心に会議で上がるこどもの特徴などを確認し、会議に望んでもらっているため	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		基本週末で学校行事の確認をおこなったり、必要であれば送迎時に学校職員と話す機会がありそこで情報共有ができている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		できるだけ差がないよう、注意しながら療育に臨むことができている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2		最低限できていると思う
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	モニタリングや担当者会議を通して支援の共通認識を行うことができている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		今のところないため
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・お便り帳や送迎時にできるだけ成長や子どもの姿を共有できるようにしている。 ・オンラインでも行える体制を整えている	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		・保護者cafeなど行っている。 親子参加のイベントを開催している		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		教室責任者を中心に必要であれば見学時に行っている様子が伺えるため	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		モニタリングや担当者会議できているように思える。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	1		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・保護者カフェの開催やバンドなどで気軽に相談や要望を話すことのできる環境になっていると感じる。 ・定期的な面談を行っている	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		兄弟児を招く活動などができている。 保護者カフェを開催している	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		支援のあり方などを丁寧に説明することを意識するだけでなく、苦情に対してどのような意図があったのかを説明する機会を設けることができると思う。解決に向かうのはもちろんだが、支援に意図を持つことができると思う。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		インスタグラムで臨場感のある活動を身近に伝えることができている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人上のファイルなどは子供の手の届かない場所におく、また触らないよう声かけてしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	災害マニュアルなど細かなマニュアルの準備ができている	訓練をもう少し充実させたい
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2		避難マップなどでできている部分は多いと思う
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1		定期的確認を意識したい
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	3		定期的に研修を行いたい
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	3	チャットワークと日報で共有している	ヒヤリハットの具体例がないため
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	指導内容の共有、職員の行動などの振り返りができていると感じる。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3	3			